

2021年2月17日

全国の諸教会・伝道所の皆様

東日本大震災 現地支援委員会
委員長 金丸 真

「2021年3月11日 東日本大震災から10年を数えての祈り」の送付について

主の御名を讃美いたします。

東日本大震災発生から10年を数えようとしています。この10年間、東日本大震災現地支援委員会の働きを覚えて祈ってくださり、そして、現在も支えてくださっている皆様に、心から感謝いたします。現地支援委員会では、ぜひ全国の皆様に現地の状況と、現地の思い、そして現地の祈りを共有していただきたいとの願いから、毎年祈りの言葉を作成して発送してきました。今年も「2021年3月11日 東日本大震災から10年を数えての祈り」を作成しました。今回は、大富キリスト教会（宮城県）の方々が祈りの原案を作成してくださいました。委員会はその原案をもとに協議して、この祈りの言葉を完成させました。ぜひ教会・伝道所でお分かちいただき、共にお祈りしていただければ幸いです。

コロナウイルス感染症の影響の中、緊張した一年を歩んできましたが、2011年3月に発令された原子力緊急事態宣言は未だ解除されていないことも忘れてはいけません。これからも放射性物質による汚染と健康被害の恐れは続きます。私たちは引き続き目を覚ましつつ、祈りを合わせていきたいと思えます。

また、2021年2月13日23時08分頃には、震度6強の福島沖地震が発生しました。この地震は東日本大震災の余震であると言われており、震災が今も続いていることにショックを受けました。東日本大震災からの10年を思い巡らしている時期の大地震ただだけに、精神的なダメージは計り知れません。10年前の経験から、また近いうちに東日本大震災レベルの地震が発生するのではないかと不安な毎日を過ごしています。ぜひ主の守りがありますようにお祈りください。また、同時に、皆様もぜひもう一度、災害が起きた時にどのような行動を取ったらよいのかを教会やご家族などで話し合ってみてください。

なお、2021年3月20日(土)14時から16時まで、zoomを用いて「東日本大震災から10年 祈りとシンポジウム」（現地支援委員会・東北連合共催）を行います。参加方法などを掲載したご案内（別紙）を同封していますので、ご覧ください。

最後になりましたが、貴教会・伝道所の歩みの上に、主の祝福と恵みが豊かにありますように、心からお祈りしております。皆様のご支援に心から感謝して。

在主

◆被災地支援募金 郵便振込 00140-9-180881 宗教法人 日本バプテスト連盟総務部

※「被災地支援募金」と明記してください。

日本バプテスト連盟 現地支援委員会 委員長 金丸 真（仙台長命ヶ丘教会）電話/FAX 022-378-1263

2021年3月11日 東日本大震災から10年を数えての祈り

東日本大震災現地支援委員会

主よ、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故から10年が経ちます。

これまで私たちが経験したことのないような大きな揺れ、そして津波によって、かけがえのない15,899人¹の命が失われ、いまだに行方不明となられている方が2,526人²います。更にいまだに津波や原発事故によって避難を強いられている方は41,781人³います。そして10年経った今もそのぬぐえない恐怖と不安、痛み悲しみがあります。主よ、慰めと平安をあたえてください。

被災地では、かさ上げをともなった住宅整備、防潮堤や堤防建設工事は進んでいますが、一方で住民の方の生活や人とのつながり、コミュニティーは分断され、それを元に戻すことは容易ではありません。再建計画の遅れから地元を離れて生活の場を移した方々、復興公営住宅に住んでも身寄りがなくなり寂しく暮らしている方々がおられます。また、高齢化で過疎化が進む復興団地もあります。主よ、まだまだ辛い環境の中で苦しみ、頑張っている人々、そして頑張ることのできない人々に希望をあたえ、寄り添い歩んでください。

原発事故によって福島は大きな被害を受け続けています。その時に拡散された放射性物質、溜まり続けている汚染水はいのちとくらし、近隣の農業や漁業にも影響をあたえ続けています。原発の廃炉作業は先が見えず、それにもかかわらず宮城県女川町おながわちょうをはじめ日本の各地では原発再稼働の波がおこり、更には原発廃棄物最終処分場の選定においても混乱や分断が起ころうとしています。そのことに対して私たちはあまり関心を持たず責任を感じることもなく、声を上げることも出来ていません。

主よ、この過ちを繰り返すことのないように、この現実から目をそらさず目を覚ましていられるように導いてください。

主よ、これまでの被災地支援の働きにあなたの守りと導きがあったことを感謝します。

10年前、あの現場の混乱と不安の中で、あなたの存在を見失ってしまう時もありました。しかし、そのような時にこそあなたは私たち一人ひとりに目を留め共にいてくださったことを感謝します。そして、被災地支援の活動は被災地にある教会だけの使命ではなく、全国各地や海外の同じ思いを持った方々の祈りと支援によって、今でも被災地の方々との交わりを続けられていることを感謝します。

あの日から10年を経過した今、熊本や大阪、北海道の地震、各地の豪雨災害、新型コロナウイルス感染拡大など、全国各地、また世界で起こる新たな苦難の中で痛む人たちに心を留め、あらためて地の塩、世の光として歩む教会の使命を確かなものとしてください。

主よ、いつもあなたの示された道を歩む者とさせてください。

あなたの御名が崇められますように。アーメン

※この祈りは、たいとみ大富キリスト教会（宮城県）の皆さんが持ち寄った祈りをもとに、委員会で話し合って作成されました。

¹ 2021年2月現在。河北新報。

² 2021年2月現在。河北新報。

³ 2021年1月13日現在。復興庁ホームページ。このうち、2万8,959人は福島県から県外への避難者。